



「親の関わり方」

子どもの能力を引き出し、健やかに育てたいというのは、全ての親に共通の願いですね。私たちは、人との関わりの中で一生を過ごしていきます。その最初に会って、生涯にわたる影響力を持つのが親子関係です。子どもの発達に応じた関わり方を日々模索しながら、子どもも親も育っていくのです。子どもの発達の様子と関わり方のポイントについて、紹介したいと思います。

子どもの葛藤にどうかかわる？

まずは、子どもが泣いたり怒ったりすることを許容しましょう。無理に感情の表出をやめさせると、子どもは感情にふたをしてしまい、自分の気持ちがわからなくなってしまいます。感情を乗り越えて感情をコントロールできるようになるには、「ぼくは怒っているんだ」「悔しいんだ」と、自分の気持ちを言葉にしてあげて、葛藤を乗り越える力を信じて待ちましょう。

言葉掛けの例

「今、困ってるんだね。」

「どうしていいか分からないんだね。」

「気持ちがおさまったらご飯食べようね。」

「泣きたい時は泣いて良いんだよ。」

子どもが自分で気持ちの切り替えができたときは、その成長した姿をしっかりと認めて声をかけましょう。

大人に認めてもらうことで、子どもは「ぼくは思い通りにならないことがあっても、きっと我慢できるんだ！」と自信を持ち、その後の自律の育ちに繋がります。

大人は…**信じて待つ、見守る、認める**

～学力より重要だとわかってきた非認知スキルとは?!～

皆さんは「非認知スキル」という言葉を耳にしたことはありますか？

まだ日本ではなじみが薄い言葉ですが、学歴や仕事など将来の支えとなるものとして今、世界的に注目されています。

非認知スキルとは、IQ（知能）に関係なく、「意欲」「協調性」「粘り強さ」「忍耐力」「計画性」など気質や性格など、目には見えない力を総称して「非認知スキル」といいます。

特に、幼児期から育成することが重要とも言われています。非認知スキルについて理解することで、子どもの中に育てたい力が明確になり、日常の接し方や言葉掛けは大きく変わっていくでしょう。

※非認知スキルとは、学力だけに結び付くわけではありません。生涯にわたって自分を成長させたり、豊かな人間関係

それでは、非認知スキルとは、具体的にはどのような力や姿勢を指すのでしょうか。一言で表すのは難しく、例えば、次のようなものが含まれています。

- ◎目標を達成するための「忍耐力」「自己抑制」「目標への情熱」
- ◎他者と協力するための「社会性」「敬意」「思いやり」
- ◎情動を抑制するための「自尊心」「楽観性」「自信」

いずれも大切な力や姿勢だと思われるのではないのでしょうか。



忍耐力がある子に…

感情がすぐ爆発したり、すぐ怒ったり、暴力を振るわないよう、毎日の生活でも子どもの要求を何でも満たし過ぎないようにし、感情のコントロールが出来るようにしましょう。

社会性のある子に…

子どもは、遊び場所や遊び道具があり、遊ぶ機会があれば、喜んで集団遊びをします。小さいときから友だちと遊ぶ機会、協力し行動する機会をつくり、社会性を伸ばしましょう。

自信のある子に…

自信ややる気を伸ばすには、子どもを褒めるのが原則です。褒められることによって、認めてもらえた嬉しさを感じるとともに、自信が持て、また次に何かをやるうとする気持ちになるのです。

最後に…乳幼児時期の親の関わり方で大切にしたいことは、子どもとの対話やスキンシップを大切にしておくことです。小さなことでも対話をして、子どもの話に耳を傾けてあげてください。子どもは確かに問い掛けの答えを求めています、自分の訴えに応えてくれる親を求めています。「こういう考え方があるのね。」「こういうやり方があるのね。」と、時には感心したり感動したりするものです。皆さんも忙しい毎日だとは思いますが、ちょっと立ち止まり、子どもとの時間を振り返ってみてはいかがでしょうか。